

市議会広報広聴委員会視察報告書

【視察日】令和7年11月6日(木)～7日(金)

【視察委員】大石心平委員長、さとうまりこ委員、大石保幸委員、深津寧子委員、川島美希子委員、薮崎正幸委員、寺田亜記子委員

【視察先】(1)三重県松阪市 (2)三重県伊勢市

【調査事項】11月6日 三重県松阪市
議員と話す出前トーク、議会だより、議会のトリセツについて

①市の概要

松阪市は、三重県の中央に位置し、東は伊勢湾に面し、西は台高山脈を境に奈良県に接しています。広大な面積を有しており、総面積は623.64k㎡、人口は151,518人(令和7年12月1日時点)です。松阪牛で知られる農業・畜産が盛んな地域である一方、商業も発展しており、歴史的な街並みや文化も色濃く残っています。

②取り組みの経緯・内容

松阪市議会では、平成24年の議会基本条例制定以降、議会改革の一環として広報広聴委員会を中心に、市民に開かれた議会運営に取り組んできました。

従来実施していた議会報告会については、参加者の減少や固定化、一方向的な説明に終始しやすいといった課題を踏まえ、市民との対話を重視した「議員と話す会」へと転換しています。

さらに令和6年度からは、議会が市民のもとへ出向く「議員と話す出前トーク」を導入し、3人以上の団体・グループからの申込みにより実施する柔軟な仕組みを構築しています。これにより、市民が意見を述べやすい環境が整えられ、従来の報告会よりも率直な声を聴く機会が広がっているとのことでした。また、市議会だよりについては、フルカラー化やレイアウト改善、高校生による表紙デザインの採用、WEB版の先行公開など、分かりやすさと即時性を重視した広報が継続的に行われています。

③今後の課題

話す会や出前トークで聴取した市民意見を、どのように整理し、常任委員会での調査や政策提言へとつなげていくかという点については、十分な仕組みが確立されておらず、今後の大きな課題とされていました。また、話す会におけるテーマ設定の在り方、出前トークの周知方法や実施要項の整理、市議会だより編集における委員間のスキル差についても、引き続き検討が必要であるとの認識が示されていました。

④本市議会の広報広聴活動に反映できると思われる点

少人数から実施可能な出前トーク型の意見聴取は、市民との距離を縮める有効な手法であり、本市議会においても十分に参考となる取組であると感じました。また、市議会だよりのデザイン改善やWEB版の先行公開、YouTube配信を職員主体で行う運営方法は、限られた予算の中でも実施可能であり、本市においても検討の余地があるものと考えます。



⑤その他(感想・意見)

松阪市議会では、「まずは実施し、改善しながら続ける」という姿勢が議会内で共有されており、試行錯誤を重ねながら改革を進めている点が強く印象に残りました。

特に、正副議長が広報広聴委員会に関与する体制は、取組を継続的に推進する上で重要な要素であると感じました。

【調査事項】 11月7日 三重県伊勢市

出前トークについて、議会だよりについて

①市の概要

伊勢市は、三重県の東部に位置し、東は伊勢湾、南は志摩市に接しています。日本の代表的な観光地であり、伊勢神宮(正式名称：神宮)の門前町として栄えてきました。

総面積は 208.53k m²、人口は 117,457人(令和7年11月末時点)です。

観光業が経済の柱であり、古くから「お伊勢さん」として親しまれ、多くの参拝客を迎えています。

また、リアス式海岸の美しい景観を持つ地域でもあります。

②取り組みの経緯・内容

伊勢市議会では、議長を除く全議員で構成する「議会のあり方調査特別委員会」を設置し、その下に企画調整部会および三つの検討分科会を置くことで、全議員参加型の議会改革を進めています。

広報広聴分野では、市民に議会を身近に感じてもらうことを目的として「議会ツアー」を実施しており、特に小学校6年生の社会科見学と連動した取組として定着しています。

また、若者の主権者意識の醸成を目的として「高校生議会」を実施してきましたが、近年ではその発展形として「高校生との意見交換会」へと形を変えながら継続されています。議員が「聴く側」に回り、高校生の意見を受け止め、議場で共有する仕組みが特徴的でした。本会議および委員会については、ケーブルテレビと YouTube を併用した映像配信が行われています。

③今後の課題

議会ツアーについては、参加者が小学生に偏っている点が課題として挙げられていました。

また、高校生事業においては参加校の減少や事業準備にかかる負担があり、加えて、若者から出された意見をどのように政策や提言へ反映していくかという点についても、引き続き検討が必要とされました。

放送・配信に係る費用対効果の検証も、今後の課題とされています。

④本市議会の広報広聴活動に反映できると思われる点

全議員参加型の特別委員会体制は、広報広聴活動を議会全体の課題として共有する上で、本市議会においても参考になる取組であると考えます。

また、学校教育と連動した議会ツアーや、高校生との意見交換会は、主権者教育や若者参画の観点から、本市でも検討に値する取組であると感じました。

委員会開催方法を工夫することで、限られた機材でも映像配信を可能としている点は、議会運営全体を見直す上で示唆に富むものでした。

⑤その他(感想・意見)

伊勢市議会では、形を変えながらも若者との関わりを継続しようとする姿勢が強く感じられました。一方で、議会ツアーや高校生事業の在り方、放送経費の問題など、本市議会と共通する課題も多く、今後の取組を検討する上で大変有意義な視察であったと感じています。

